

# 天然害虫忌避剤

企 業 / 守田化学工業株式会社

研究者 / 駒井功一郎（近畿大学農学部教授）

農業分野で殺虫剤の過剰散布は昆虫類の生態系を乱し、また残留農薬の問題をも引き起こしている。殺虫剤の使用量を低減するとともに昆虫類の生態系をも乱すことなく農産物を昆虫類の食害から守るというテーマの基に植物から得られる摂食阻害成分の開発を行い、「カヤツリグサ」に含まれる摂食阻害成分を有効利用し天然害虫忌避剤を開発した。

特に農産物への農薬使用に関して消費者の関心は高く化学肥料、農薬を使用しない「有機農産物」市場が拡大しつつあるが、生産者は低コストで安定した供給を計るべく化学肥料、農薬の使用を一定量以下に抑えた改正JAS法に規定された表示基準「特別栽培農産物」に準じた栽培方法を多く採用する様になり、主なスーパーでの取り扱いアイテム数が増加しつつある。

農産物の安定供給、低コスト化を図る「特別栽培農産物」は、減農薬栽培では農産物を害虫の食害から完全に防ぐことは困難であるが、天然害虫忌避剤との併用により食害を防ぎ安定供給、低コスト化を達成出来ると共に、殺虫剤の散布量を減らすことにより環境への影響を低減することが可能となる。

「カヤツリグサ」の摂食阻害成分を含む忌避剤と農薬の併用効果はキャベツ栽培等で従来の殺虫剤の使用量を半減させる効果が確認され、「特別栽培農産物」の品質向上、低コスト化に有効との結果が得られている。さらに、天然害虫忌避剤はゴルフ場のグリーン芝のマメコガネ虫等の食害を防ぐなど観葉植物を始め植物を害虫の食害から安全に守ることを可能にする。



害虫忌避効果の実証試験